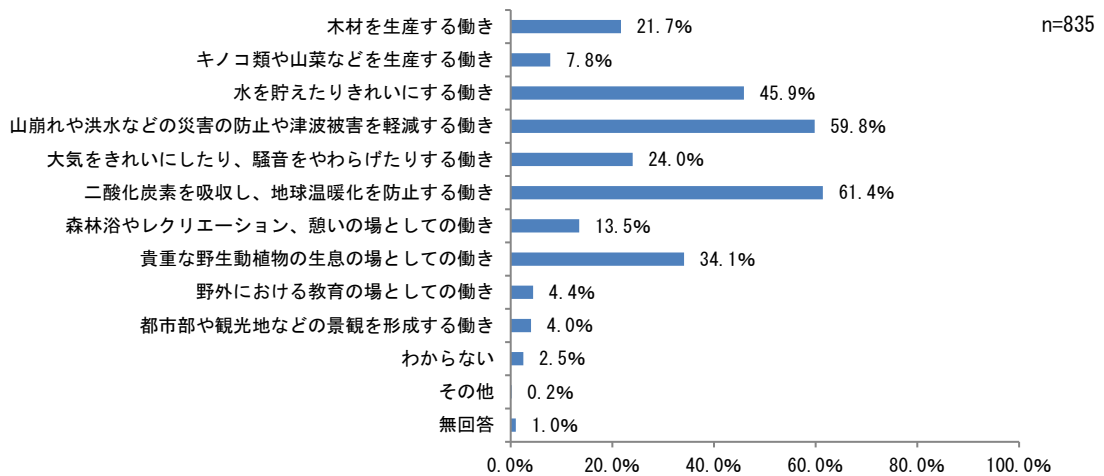


## 森林・森林づくりに関する意識について

問1 あなたは、森林にどのような働きを期待しますか。  
次の中から3つまでお選びください。



### 【全体】

「二酸化炭素を吸収し、地球温暖化を防止する働き」(61.4%)と答えた方の割合が最も高く、次いで「山崩れや洪水などの災害の防止や津波被害を軽減する働き」(59.8%)、「水を貯えたりきれいにする働き」(45.9%)の順となっている。

### 【圏域別】

「二酸化炭素を吸収し、地球温暖化を防止する働き」については、十勝連携地域(77.0%)が最も割合が高く、次いで道北連携地域(62.8%)となっている。「山崩れや洪水などの災害の防止や津波被害を軽減する働き」については、オホーツク連携地域(76.5%)が最も割合が高く、次いで十勝連携地域(63.9%)となっている。

### 【人口規模別】

「二酸化炭素を吸収し、地球温暖化を防止する働き」については、町村部(65.6%)が最も割合が高く、次いで札幌市(61.5%)となっている。「山崩れや洪水などの災害の防止や津波被害を軽減する働き」については、人口10万人以上の市(62.2%)が最も割合が高く、次いで町村部(61.6%)となっている。

### 【性別】

「二酸化炭素を吸収し、地球温暖化を防止する働き」については、男性60.1%、女性62.4%となっており、「山崩れや洪水などの災害の防止や津波被害を軽減する働き」については、男性57.3%、女性62.1%となっている。

### 【年代別】

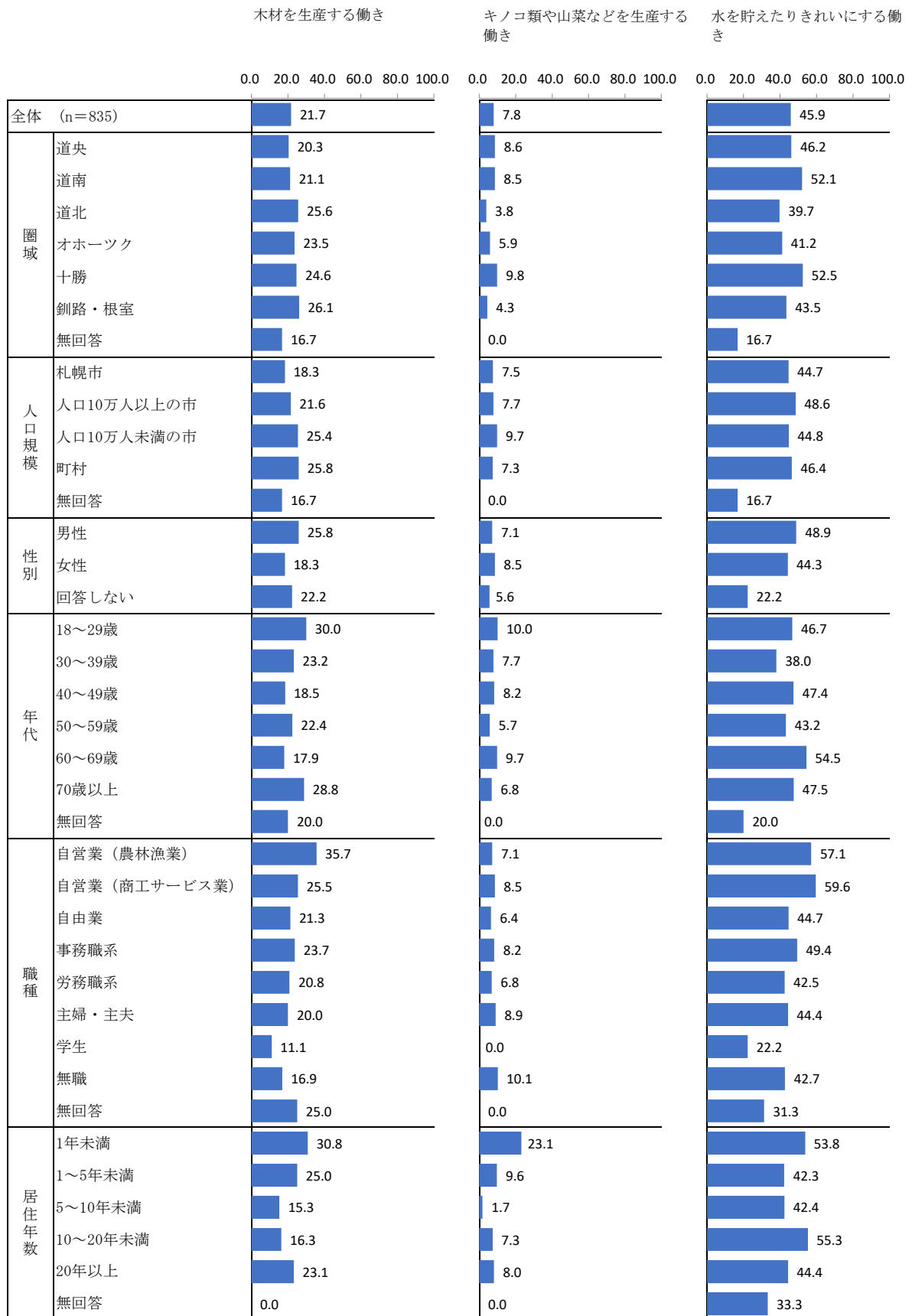
「二酸化炭素を吸収し、地球温暖化を防止する働き」については、40～49歳(65.1%)が最も割合が高く、次いで50～59歳(63.0%)となっている。「山崩れや洪水などの災害の防止や津波被害を軽減する働き」については、60～69歳(69.0%)が最も割合が高く、次いで50～59歳(65.1%)となっている。

### 【職種別】

「二酸化炭素を吸収し、地球温暖化を防止する働き」については、主婦・主夫(65.2%)が最も割合が高く、次いで労務職系(64.3%)となっている。「山崩れや洪水などの災害の防止や津波被害を軽減する働き」については、無職(68.5%)が最も割合が高く、次いで主婦・主夫(66.7%)となっている。

**【居住年数別】**

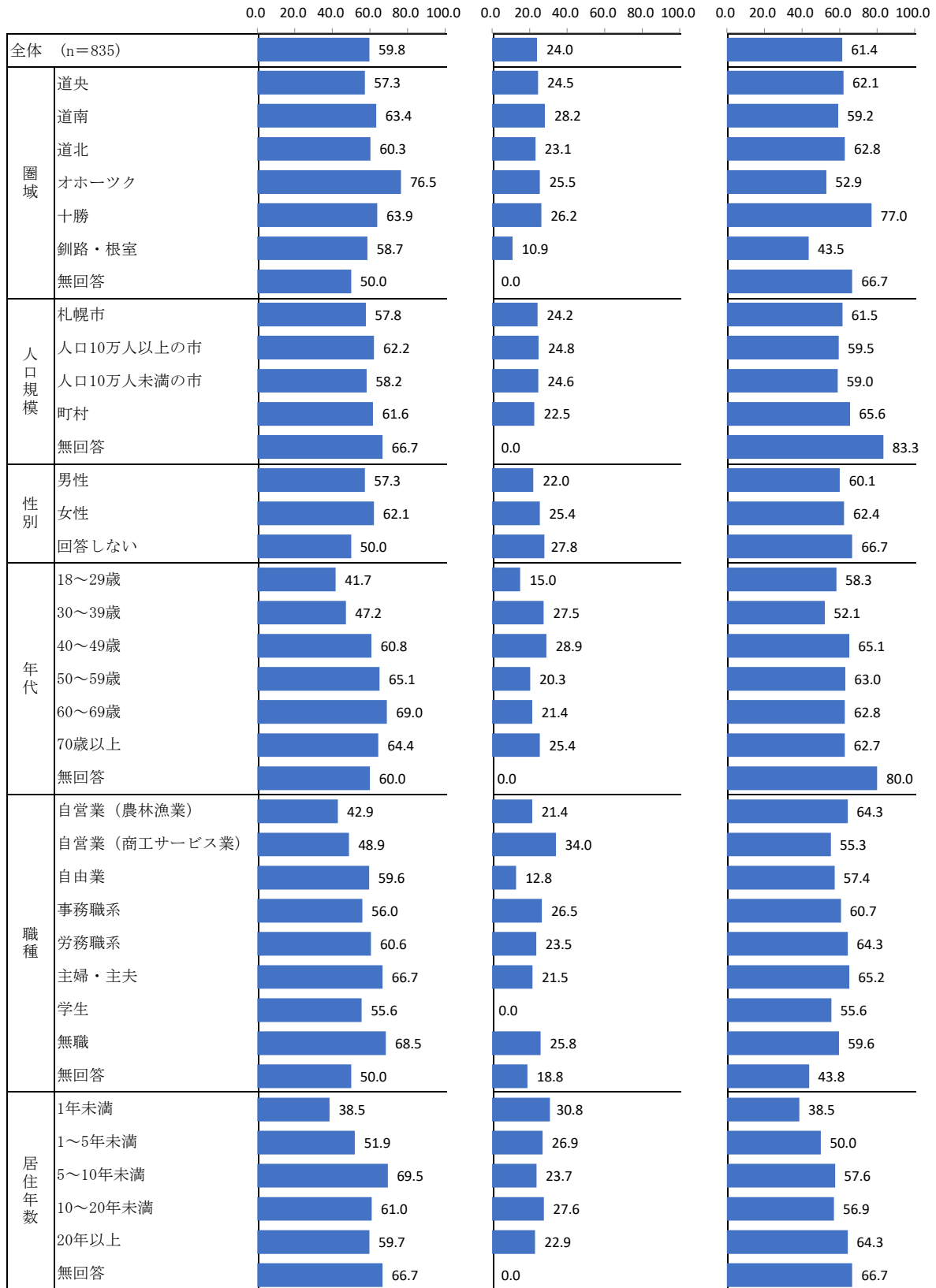
「二酸化炭素を吸収し、地球温暖化を防止する働き」については、20 年以上（64.3%）が最も割合が高く、次いで 5～10 年未満（57.6%）となっている。「山崩れや洪水などの災害の防止や津波被害を軽減する働き」については、5～10 年未満（69.5%）が最も割合が高く、次いで 10～20 年未満（61.0%）となっている。



山崩れや洪水などの災害の防止  
や津波被害を軽減する働き

大気をきれいにしたり、騒音を  
やわらげたりする働き

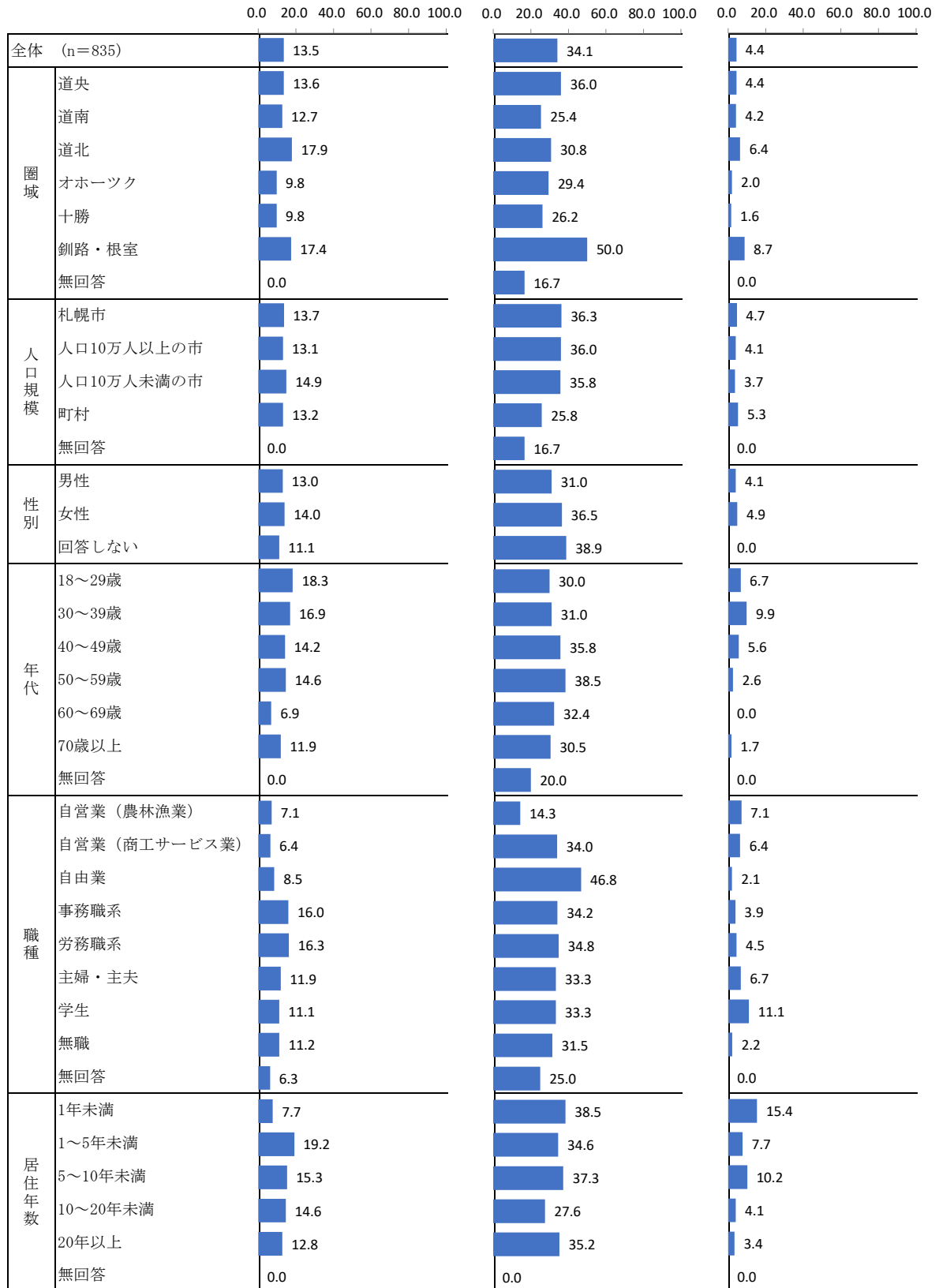
二酸化炭素を吸収し、地球温  
暖化を防止する働き



森林浴やレクリエーション、憩いの場としての働き

貴重な野生動植物の生息の場としての働き

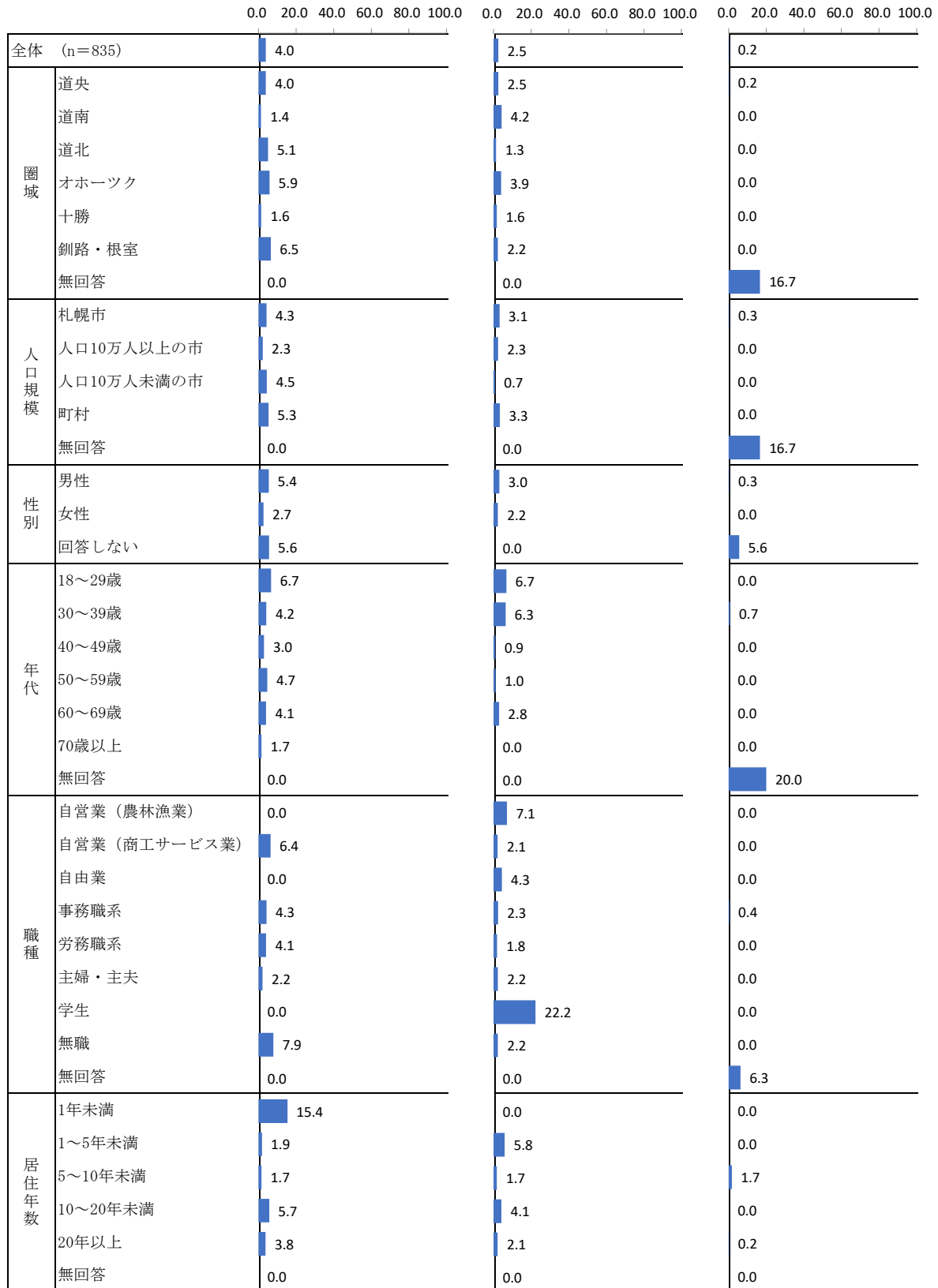
野外における教育の場としての働き



都市部や観光地などの景観を形成する働き

わからない

その他



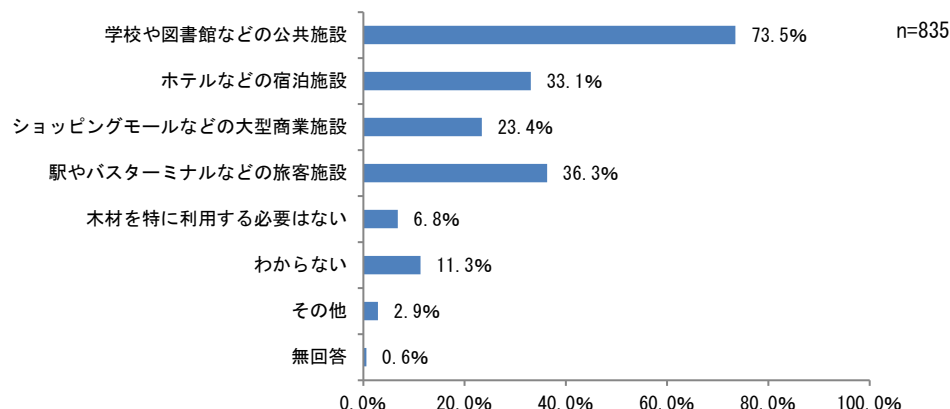
無回答

0.0 20.0 40.0 60.0 80.0 100.0

全体	(n=835)	1.0
圏域	道央	0.8
	道南	0.0
	道北	1.3
	オホーツク	2.0
	十勝	0.0
	釧路・根室	0.0
	無回答	33.3
	人口規模	札幌市
人口10万人以上の市		0.9
人口10万人未満の市		0.7
町村		0.7
無回答		16.7
性別	男性	1.1
	女性	0.7
	回答しない	5.6
年代	18～29歳	0.0
	30～39歳	0.7
	40～49歳	0.0
	50～59歳	0.5
	60～69歳	2.1
	70歳以上	3.4
	無回答	20.0
	職種	自営業（農林漁業）
自営業（商工サービス業）		0.0
自由業		2.1
事務職系		0.4
労務職系		0.5
主婦・主夫		0.0
学生		0.0
無職		1.1
無回答		18.8
居住年数		1年未満
	1～5年未満	0.0
	5～10年未満	0.0
	10～20年未満	0.8
	20年以上	1.0
	無回答	33.3

## 問2 あなたは、どのような施設に木材が利用されることを期待しますか。

次の中からいくつでもお選びください。



### 【全体】

「学校や図書館などの公共施設」(73.5%)と答えた方の割合が最も高く、次いで「駅やバスターミナルなどの旅客施設」(36.3%)、「ホテルなどの宿泊施設」(33.1%)の順となっている。

### 【圏域別】

「学校や図書館などの公共施設」については、道北連携地域(78.2%)が最も割合が高く、次いで釧路・根室連携地域(76.1%)となっている。「駅やバスターミナルなどの旅客施設」については、十勝連携地域(52.5%)が最も割合が高く、次いで釧路・根室連携地域(37.0%)となっている。

### 【人口規模別】

「学校や図書館などの公共施設」については、人口10万人以上の市(74.8%)が最も割合が高く、次いで人口10万人未満の市(74.6%)となっている。「駅やバスターミナルなどの旅客施設」については、人口10万人未満の市(41.9%)が最も割合が高く、次いで町村部(37.1%)となっている。

### 【性別】

「学校や図書館などの公共施設」については、男性66.3%、女性79.5%となっており、「駅やバスターミナルなどの旅客施設」については、男性34.2%、女性38.3%となっている。

### 【年代別】

「学校や図書館などの公共施設」については、70歳以上(81.4%)が最も割合が高く、次いで60～69歳(77.2%)となっている。「駅やバスターミナルなどの旅客施設」については、70歳以上(42.4%)が最も割合が高く、次いで50～59歳(41.1%)となっている。

### 【職種別】

「学校や図書館などの公共施設」については、主婦・主夫(81.5%)が最も割合が高く、次いで事務職系(76.3%)となっている。「駅やバスターミナルなどの旅客施設」については、無職(40.4%)が最も割合が高く、次いで労務職系(37.1%)となっている。

### 【居住年数別】

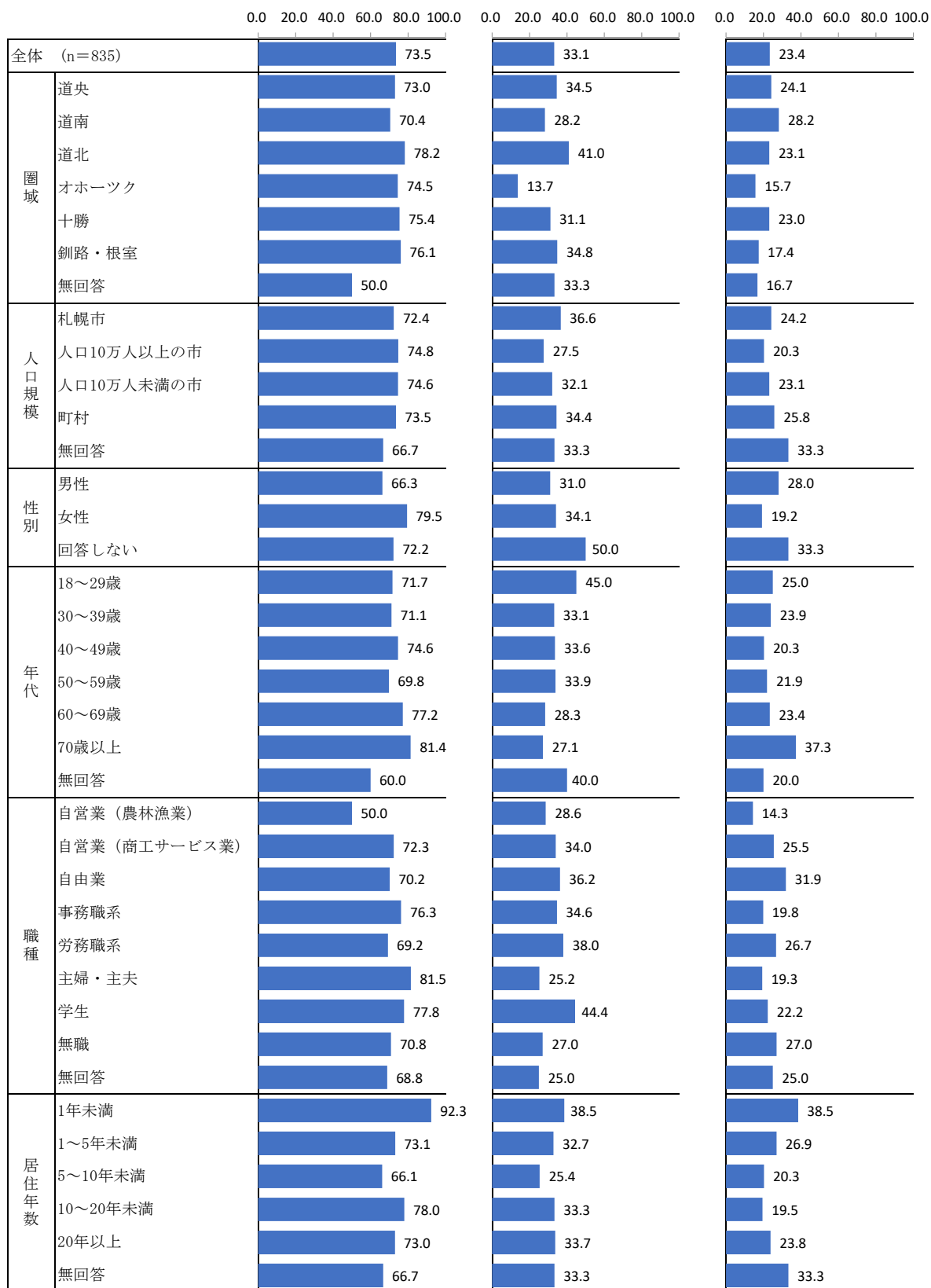
「学校や図書館などの公共施設」については、1年未満(92.3%)が最も割合が高く、次いで10～20年未満(78.0%)となっている。「駅やバスターミナルなどの旅客施設」については、1年未満(46.2%)が最も割合が高く、次いで20年以上(37.4%)となっている。



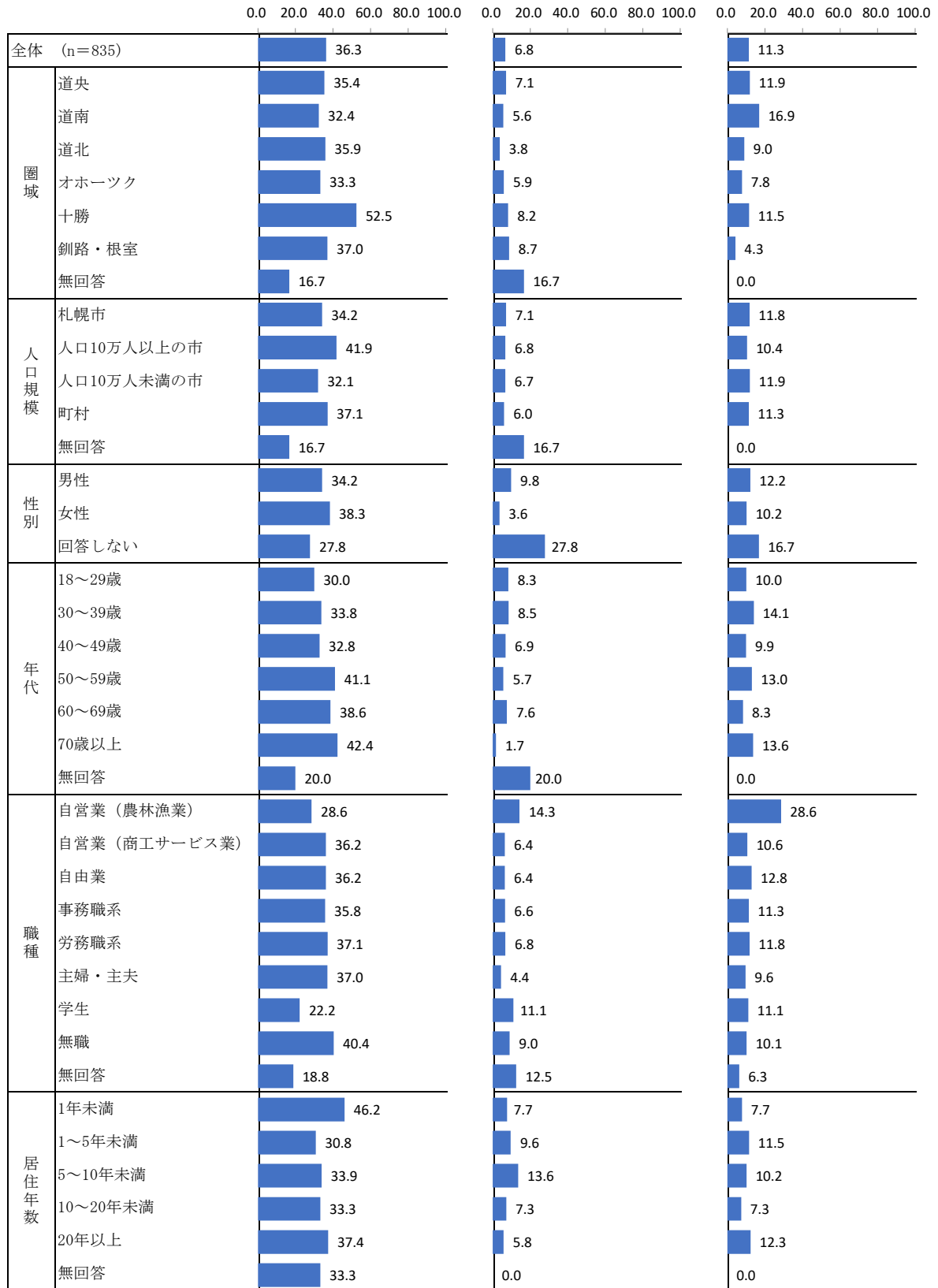
学校や図書館などの公共施設

ホテルなどの宿泊施設

ショッピングモールなどの大型商業施設

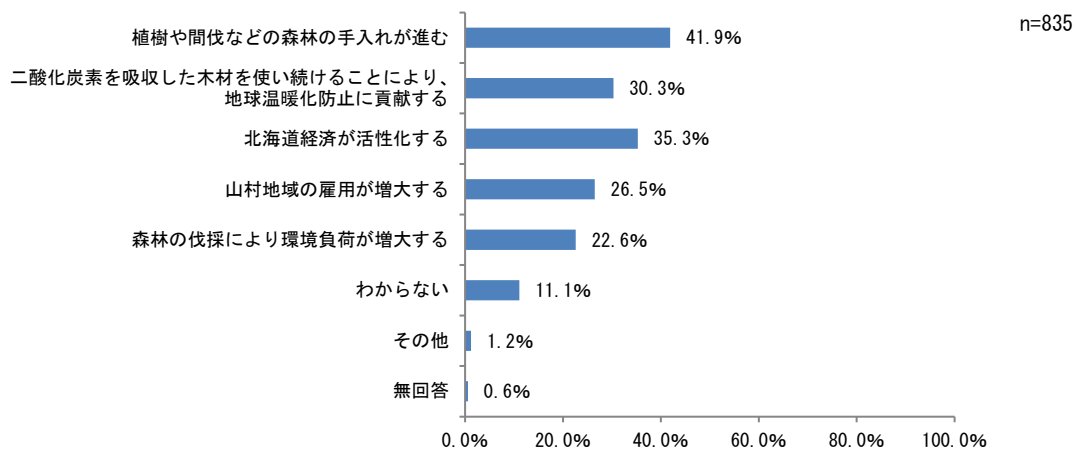


駅やバスターミナルなどの旅客 木材を特に利用する必要はない わからない  
施設





**問3** あなたは、道産木材や木製品の利用が広がることによって、どのような効果・影響があると考えますか。次の中から2つまでお選びください。



**【全体】**

「植樹や間伐などの森林の手入れが進む」(41.9%)と答えた方の割合が最も高く、次いで「北海道経済が活性化する」(35.3%)、「二酸化炭素を吸収した木材を使い続けることにより、地球温暖化防止に貢献する」(30.3%)の順となっている。

**【圏域別】**

「植樹や間伐などの森林の手入れが進む」については、十勝連携地域(47.5%)が最も割合が高く、次いで道北連携地域(44.9%)となっている。「北海道経済が活性化する」については、オホーツク連携地域(51.0%)が最も割合が高く、次いで道北連携地域(43.6%)となっている。

**【人口規模別】**

「植樹や間伐などの森林の手入れが進む」については、人口10万人以上の市(47.7%)が最も割合が高く、次いで人口10万人未満の市(43.3%)となっている。「北海道経済が活性化する」については、町村部(40.4%)が最も割合が高く、次いで人口10万人以上の市(37.8%)となっている。

**【性別】**

「植樹や間伐などの森林の手入れが進む」については、男性44.8%、女性39.9%となっており、「北海道経済が活性化する」については、男性37.0%、女性34.5%となっている。

**【年代別】**

「植樹や間伐などの森林の手入れが進む」については、70歳以上(50.8%)が最も割合が高く、次いで60～69歳(50.3%)となっている。「北海道経済が活性化する」については、50～59歳(41.7%)が最も割合が高く、次いで70歳以上(37.3%)となっている。

**【職種別】**

「植樹や間伐などの森林の手入れが進む」については、無職(51.7%)が最も割合が高く、次いで自由業(48.9%)となっている。「北海道経済が活性化する」については、自営業(商工サービス業)(44.7%)が最も割合が高く、次いで主婦・主夫(41.5%)となっている。

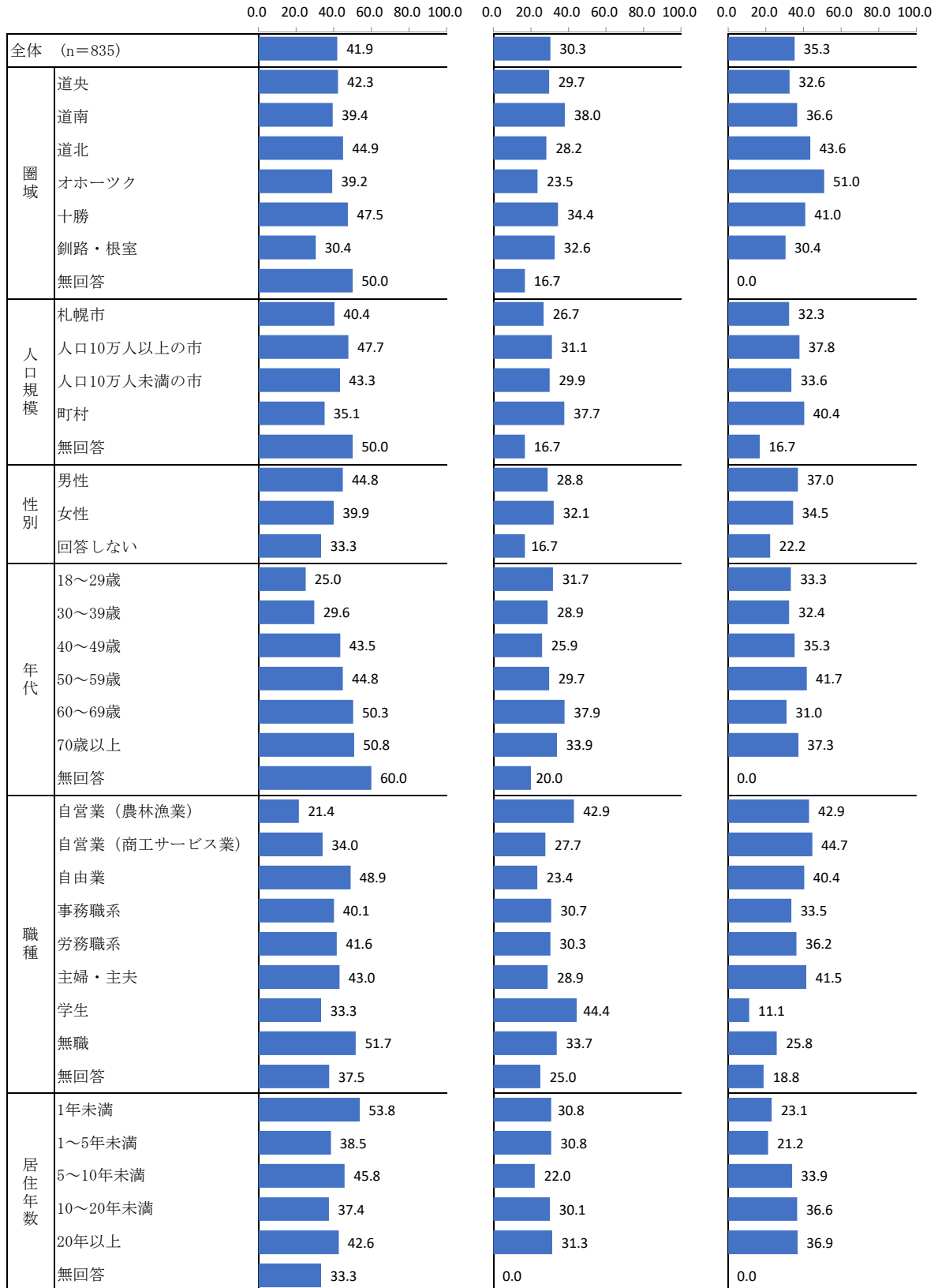
**【居住年数別】**

「植樹や間伐などの森林の手入れが進む」については、1年未満(53.8%)が最も割合が高く、次いで5～10年未満(45.8%)となっている。「北海道経済が活性化する」については、20年以上(36.9%)が最も割合が高く、次いで10～20年未満(36.6%)となっている。

植樹や間伐などの森林の手入れが進む

二酸化炭素を吸収した木材を使い続けることにより、地球温暖化防止に貢献する

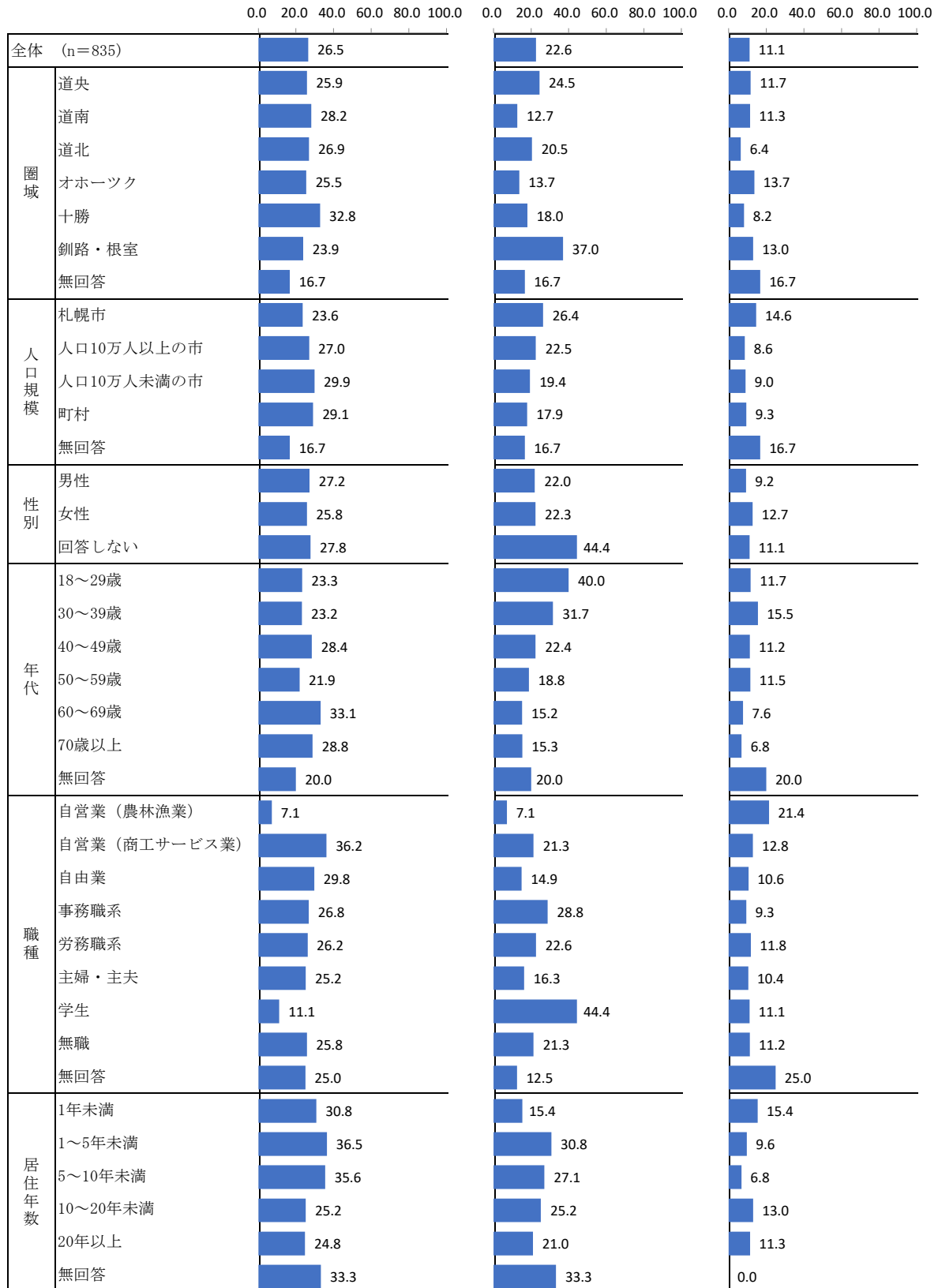
北海道経済が活性化する



山村地域の雇用が増大する

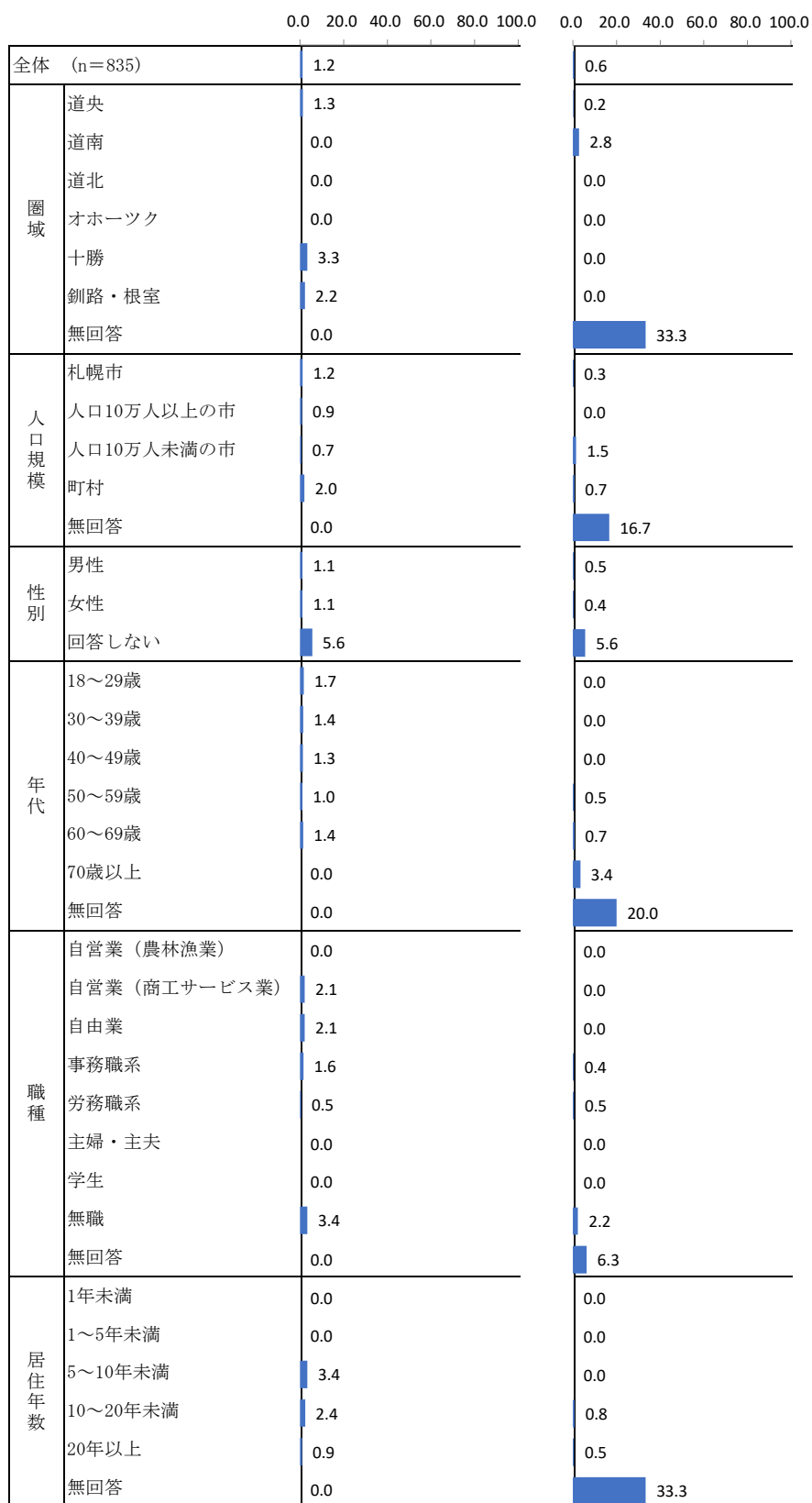
森林の伐採により環境負荷が増大する

わからない



その他

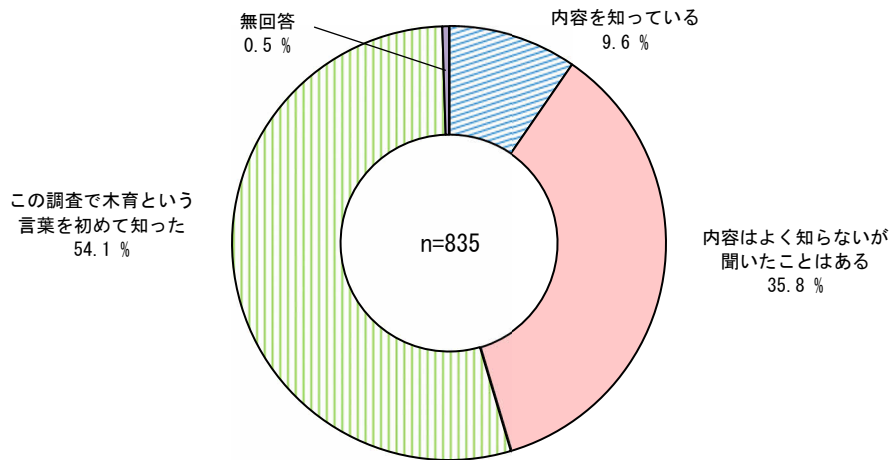
無回答



問4 あなたは、「木育(もくいく)」※という言葉をご存じですか。

次の中から1つだけお選びください。

(※「木育」とは、森林づくり活動や木材とのふれあいを通じて、人と、木や森とのかかわりを主体的に考えられる豊かな心を育む、北海道生まれの取組です。)



#### 【全体】

「この調査で木育という言葉を知った」(54.1%)と答えた方の割合が最も高く、次いで「内容はよく知らないが聞いたことはある」(35.8%)、「内容を知っている」(9.6%)の順となっている。

#### 【圏域別】

「この調査で木育という言葉を知った」については、道央広域連携地域(60.3%)が最も割合が高く、次いで十勝連携地域(49.2%)となっている。「内容はよく知らないが聞いたことはある」については、釧路・根室連携地域(52.2%)が最も割合が高く、次いでオホーツク連携地域(51.0%)となっている。

#### 【人口規模別】

「この調査で木育という言葉を知った」については、札幌市(61.8%)が最も割合が高く、次いで人口10万人未満の市(55.2%)となっている。「内容はよく知らないが聞いたことはある」については、町村部(41.1%)が最も割合が高く、次いで人口10万人未満の市(40.3%)となっている。

#### 【性別】

「この調査で木育という言葉を知った」については、男性57.1%、女性52.1%となっており、「内容はよく知らないが聞いたことはある」については、男性34.0%、女性37.0%となっている。

#### 【年代別】

「この調査で木育という言葉を知った」については、30～39歳(63.4%)が最も割合が高く、次いで40～49歳(60.8%)となっている。「内容はよく知らないが聞いたことはある」については、60～69歳(49.7%)が最も割合が高く、次いで70歳以上(45.8%)となっている。

#### 【職種別】

「この調査で木育という言葉を知った」については、労務職系(62.4%)が最も割合が高く、次いで自由業(59.6%)となっている。「内容はよく知らないが聞いたことはある」については、自営業(商工サービス業)(55.3%)で最も割合が高く、次いで無職(40.4%)となっている。

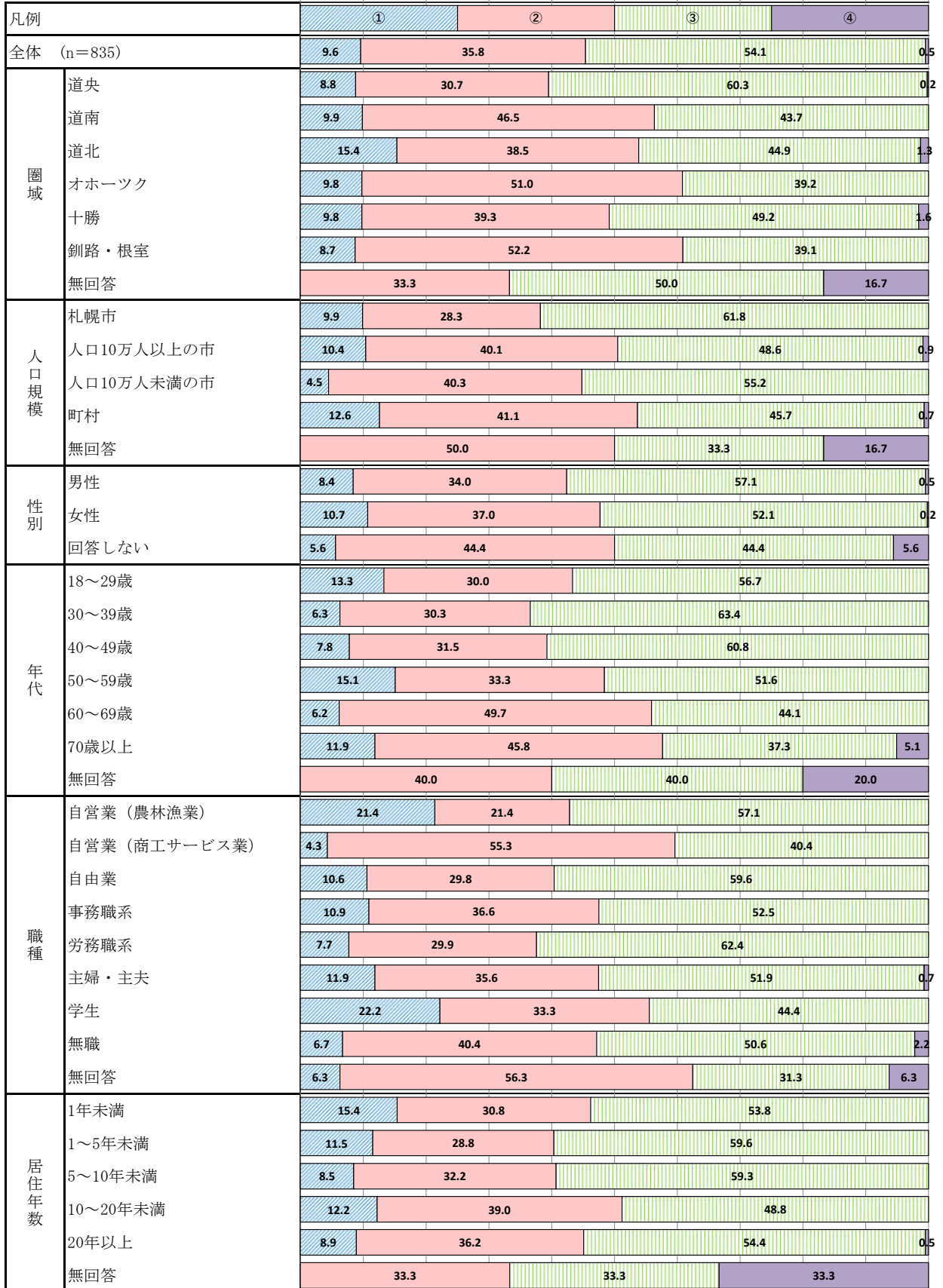
#### 【居住年数別】

「この調査で木育という言葉を知った」については、1～5年未満(59.6%)が最も割合が高く、次いで5～10年未満(59.3%)となっている。「内容はよく知らないが聞いたことはある」については、10～20年未満(39.0%)が最も割合が高く、次いで20年以上(36.2%)となっている。

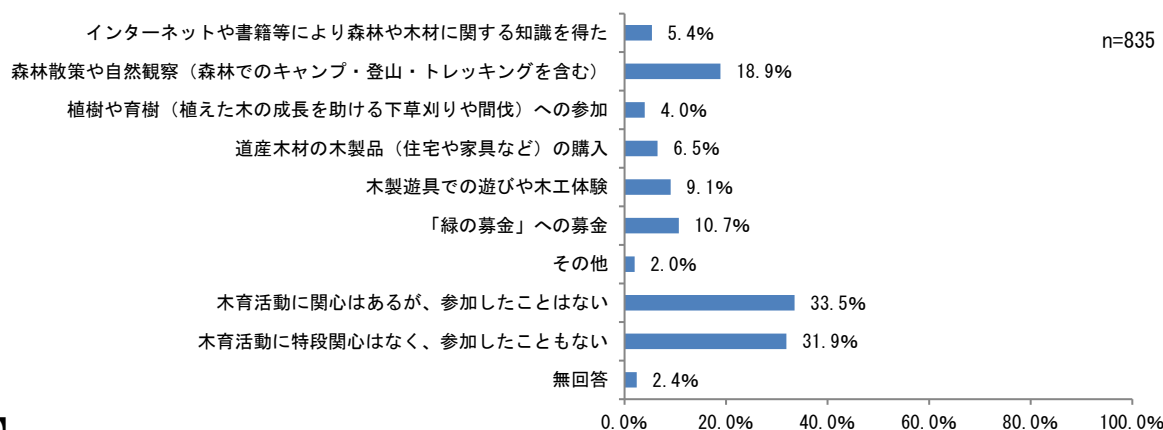


①内容を知っている      ②内容はよく知らないが聞いたことはある  
 ③この調査で木育という言葉を知った      ④無回答

0%    10%    20%    30%    40%    50%    60%    70%    80%    90%    100%



**問5** あなたは、過去3年くらいの間にどのような木育活動に参加しましたか。  
次の中からいくつでもお選びください。



**【全体】**

「木育活動に関心はあるが、参加したことはない」(33.5%)と答えた方の割合が最も高く、次いで「木育活動に特段関心はなく、参加したこともない」(31.9%)、「森林散策や自然観察 (森林でのキャンプ・登山・トレッキングを含む)」(18.9%)の順となっている。

**【圏域別】**

「木育活動に関心はあるが、参加したことはない」については、十勝連携地域 (41.0%) が最も割合が高く、次いで道南連携地域 (39.4%) となっている。「木育活動に特段関心はなく、参加したこともない」については、オホーツク連携地域 (41.2%) が最も割合が高く、次いで道央広域連携地域 (34.5%) となっている。

**【人口規模別】**

「木育活動に関心はあるが、参加したことはない」については、人口 10 万人以上の市 (38.3%) が最も割合が高く、次いで町村部 (34.4%) となっている。「木育活動に特段関心はなく、参加したこともない」については、人口 10 万人未満の市 (36.6%) が最も割合が高く、次いで札幌市 (36.0%) となっている。

**【性別】**

「木育活動に関心はあるが、参加したことはない」については、男性 34.2%、女性 33.0% となっており、「木育活動に特段関心はなく、参加したこともない」については、男性 35.6%、女性 29.2% となっている。

**【年代別】**

「木育活動に関心はあるが、参加したことはない」については、60～69 歳 (45.5%) が最も割合が高く、次いで 70 歳以上 (39.0%) となっている。「木育活動に特段関心はなく、参加したこともない」については、30～39 歳 (38.0%) が最も割合が高く、次いで 18～29 歳 (33.3%) となっている。

**【職種別】**

「木育活動に関心はあるが、参加したことはない」については、無職 (42.7%) が最も割合が高く、次いで自営業 (商工サービス業) (38.3%) となっている。「木育活動に特段関心はなく、参加したこともない」については、自由業 (40.4%) が最も割合が高く、次いで労務職系 (36.7%) となっている。

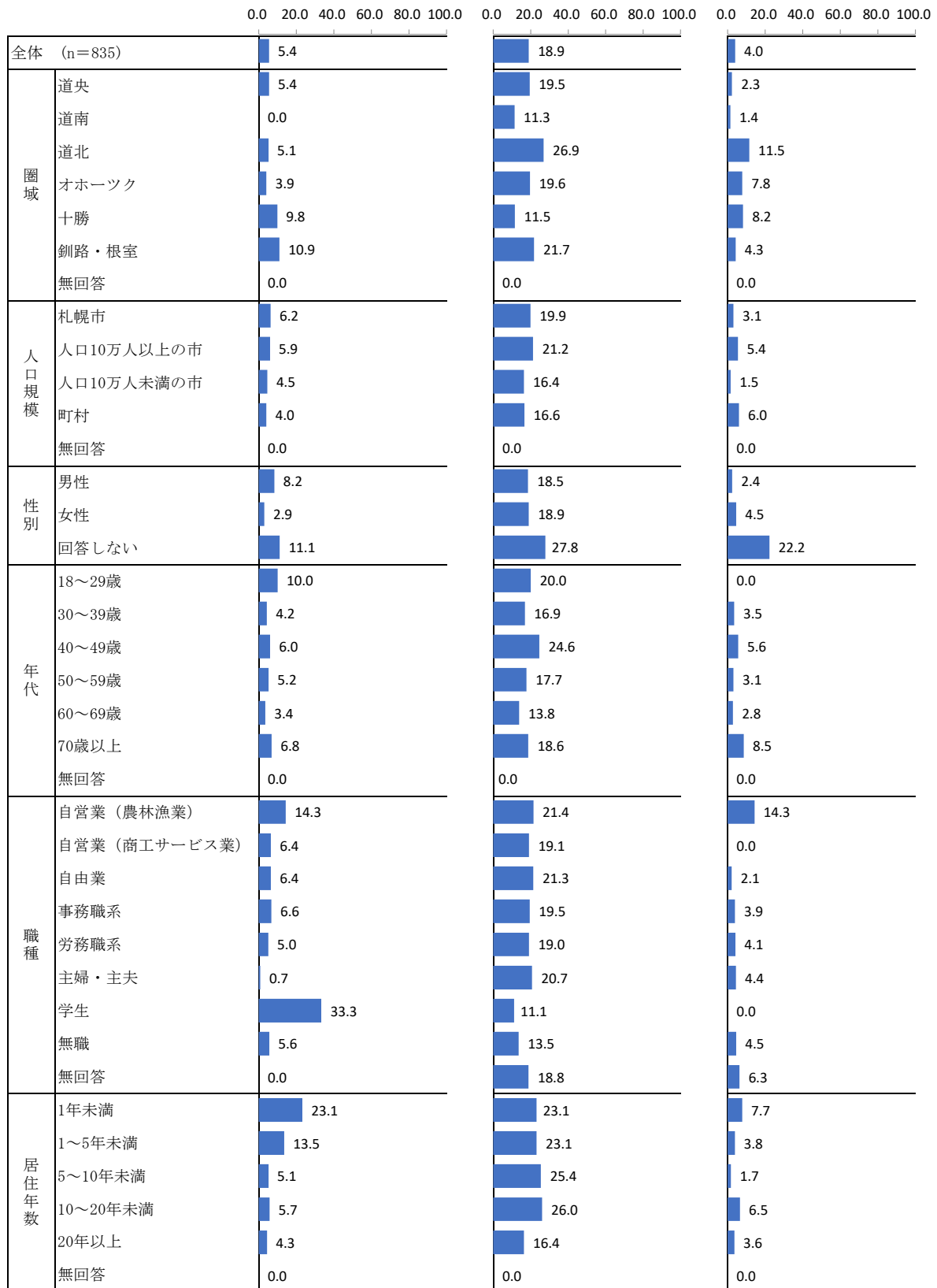
**【居住年数別】**

「木育活動に関心はあるが、参加したことはない」については、1 年未満 (46.2%) が最も割合が高く、次いで 5～10 年未満 (35.6%) となっている。「木育活動に特段関心はなく、参加したこともない」については、1 年未満 (38.5%) が最も割合が高く、次いで 20 年以上 (33.3%) となっている。

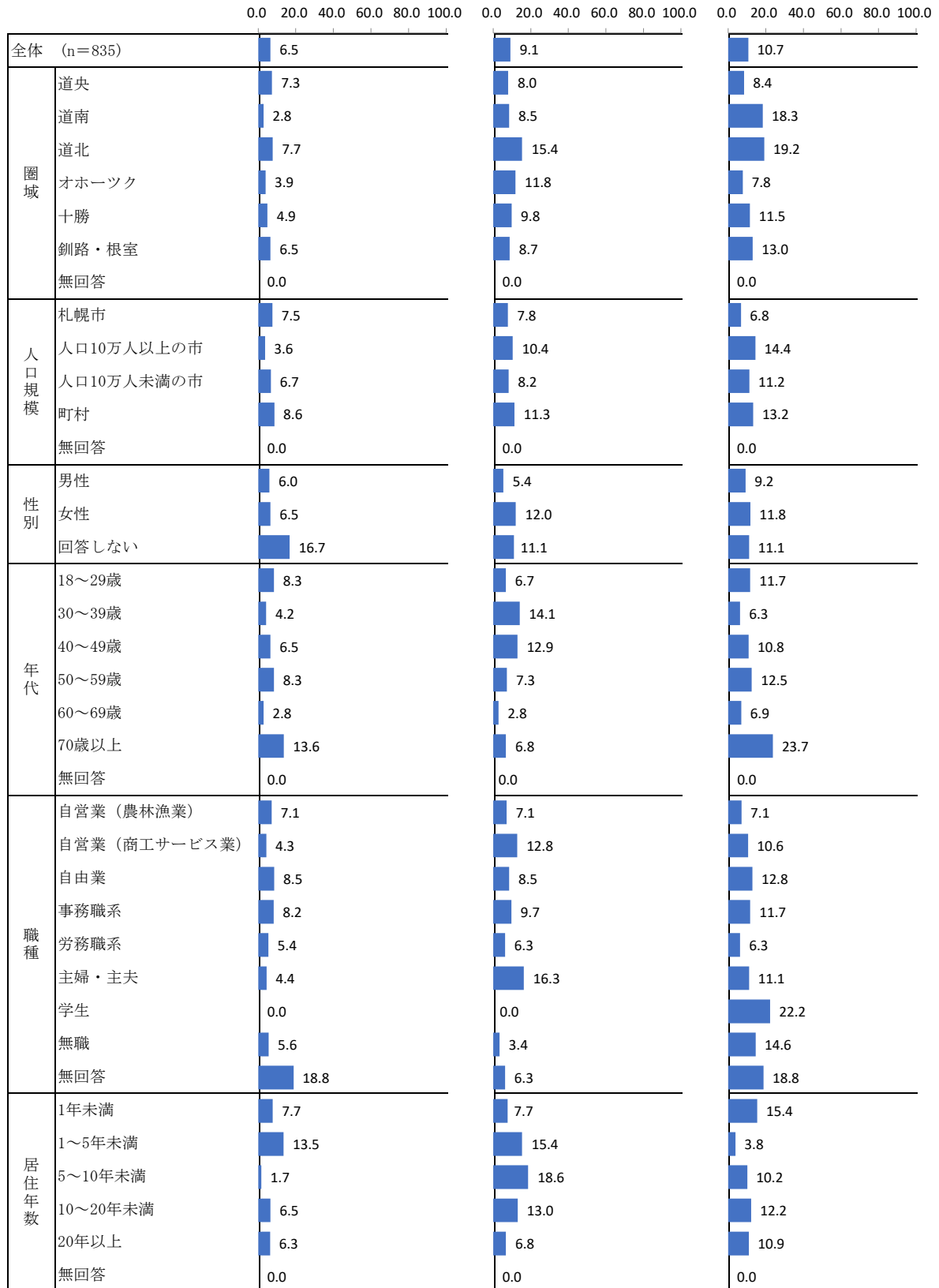
インターネットや書籍等により森林や木材に関する知識を得た

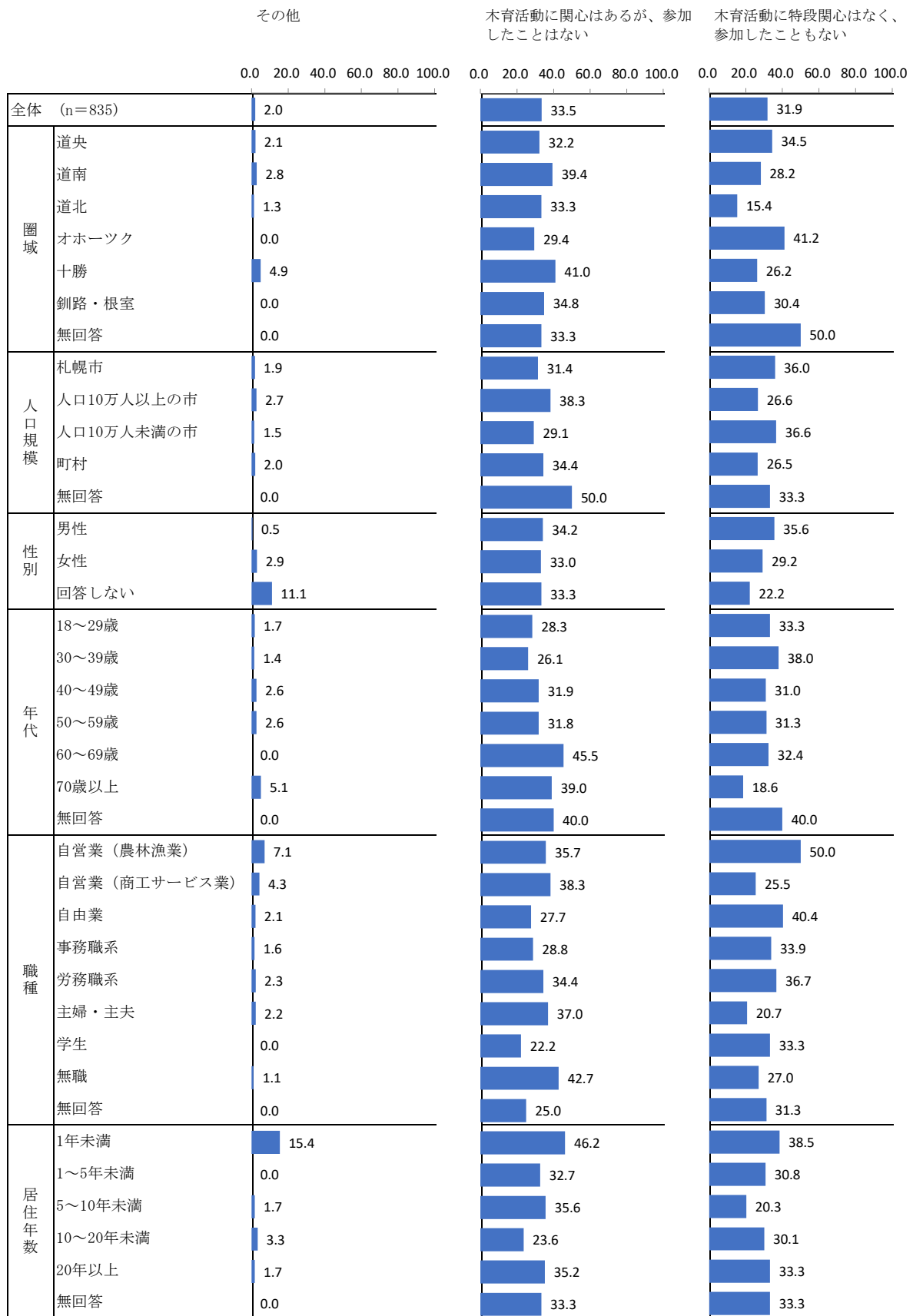
森林散策や自然観察（森林でのキャンプ・登山・トレッキングを含む）

植樹や育樹（植えた木の成長を助ける下草刈りや間伐）への参加

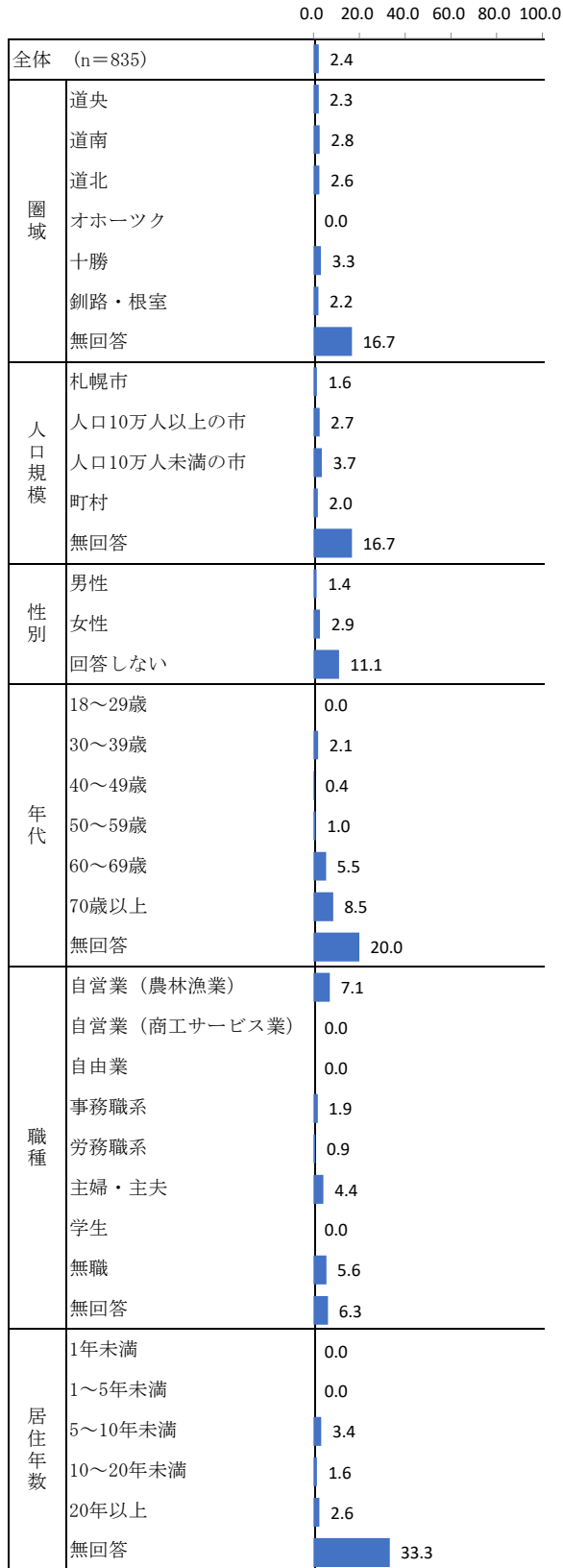


道産木材の木製品（住宅や家具 木製遊具での遊びや木工体験 などの購入 「緑の募金」への募金





無回答



## 「森林・森林づくりに関する意識について」の調査を終えて

道民が森林に期待する働きについて、「二酸化炭素を吸収し、地球温暖化を防止する働き」は平成 28 年度（2016 年度）に実施した前回調査では2番目に多い回答だったが、今回は 6 割を超えて最多となり、森林が持つ地球環境保全の働きに対しての期待の高さが伺える結果となった。

また、道産木材や木製品の利用による効果や影響については、「植林や間伐などの森林の手入れが進む」が4割を超えて最多となったが、「森林の伐採により環境負荷が増大する」も2割程度あり、「森林資源の循環利用」の意義を一層浸透させることが必要と考えられる。

このほか、北海道発祥の取組である「木育」について、前回調査で約 40%であった木育という言葉の認知度が今回は約 45%となり、5%の増加となった。

こうした調査結果を踏まえ、令和4年度（2022 年度）を始期とする新たな北海道森林づくり基本計画（計画期間：10 年間）の策定を進め、森林の持つ多面的な機能の発揮や道産木材・木製品の利用拡大による森林資源の循環利用の確立、木育の推進による森林づくりに対する道民理解の醸成を図っていく。

（水産林務部総務課）